

平成25年度秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 平成26年2月12日（水） 午後3時～午後4時30分

【場 所】 秋田市山王 ルポールみずほ2階 「ききょうの間」

【出席者】 学識経験者：江島委員、佐藤委員、高橋委員、高谷委員、外山委員
事業主代表：斎藤委員、坂本委員
労働者代表：加藤委員、竹谷委員
特別委員：木下委員、鎌田委員（代理：渡辺主任指導主事）
（事務局）：関根産業労働部長、保坂雇用労働政策課長ほか関係職員

【概要】

- 1 開 会
- 2 秋田県産業労働部長あいさつ
- 3 秋田県職業能力審議会会長あいさつ
- 4 議 事
 - (1) 協議事項
平成26年度職業能力開発事業の運営方針（案）について
 - (2) 報告事項
 - ① 平成25年度県立技術専門校修了予定者の就職内定状況について
 - ② 平成26年度県立技術専門校訓練生の入校選考の状況について
 - ③ 職業能力開発事業に関する平成25年度実施状況及び平成26年度実施計画
 - (3) その他

事務局から平成26年度職業能力開発事業の運営方針（案）の概要説明があり、各委員においても異議を唱える意見が無く、事務局が示した原案のとおり了承された。

また、事務局から職業能力開発事業に関する平成25年度実施状況及び平成26年度実施計画等に関する報告があり、午後4時30分、秋田県職業能力開発審議会を閉会した。

なお、主な質疑応答は次のとおりである。

協議事項 平成26年度職業能力開発事業の運営方針（案）について

- 資料「協議事項」P1の主要な取り組みの2項目「技術専門校の定員割れが続く訓練科のあり方について、全県的に長期的な視野での検討を実施する。」とあるが、県としてはどのように考えていますか。
- 技術専門校の施設整備については、県内3校共、平成20年度までに施設設備は完成しておりますが、ただ、その後、定員割れが続いている訓練科もあります。そのため、平成26年度新規事業として、技術専門校訓練科の見直しを実施する予定です。
また、一般質問等での知事の答弁では、再生エネルギー等の新たな事業についても入れることが必要と考えており、そのため、個別のカリキュラムについても、将来の産業ニーズを踏

まえた長期的なスパンで検討するという考え方です。

- 資料「協議事項」P1の3項の、「勤労者自らがキャリアアップを図るための職業能力開発の推進について」ですが、現在中小企業では、当然、国内の閉塞状況もあって、海外との取引が増えてきています。海外とのコミュニケーションの問題（英語等）は、社内でも英会話教室を開いているが、なかなか身につかない。喋ることはできるが、英語で見積書を書くことなどが難しい。英語の能力を身に着けると産業のチャンスが増えるので、是非、取り組みの中で検討していただけないでしょうか。

→ 英会話については、過去には把握できていませんが、委員のお話されたニーズもあるし、そのほかのニーズがあるのかもと考えています。

在職者の訓練もセットしておりますので、そのようなニーズや意見を取り上げていく必要があると思います。

- 資料「協議事項」P2の4項の「主要な取り組み」にある「eラーニングコース」について説明してください。

→ 「eラーニングコース」のeはエレクトロニックの略です。パソコン等を活用して障害者委託訓練を行うコースですが、このコースは、重度の障害者が対象で、在宅でインターネットを活用し、3ヶ月間学ぶコースです。ノウハウのある企業が訓練を受託し、自宅にいる障害者の方にIT技術を教えるというものです。

今まで秋田県では訓練コースの実績はありませんが、今回、秋田市の方で1人希望者がおり、当初予算で要求しております。

他県では、このコースを修了し、就職された方がいらっしゃるそうです。

- 「eラーニングコース」ですが、対象者が障害者だけでなく、一般の方も訓練出来ますか。

→ 要綱上はあくまで対象が障害者の方なので、一般の方のメニューはまだありません。厚生労働省では在宅ワークという流れもありますので、一般の方の在宅コースは今後ニーズを把握し国と相談していきたいと考えています。

- 資料「協議事項」P2の5項の「ものづくりマイスター制度」について説明して下さい。

→ 資料「協議事項」の最後のページの注釈に、マイスターの認定要件を記載しておりますが、技能検定の特級・一級・単一等級の技能士の方々とか、技能五輪全国大会で優秀な成績を取った方など、その上で技能の継承や後進者の育成に関して意欲を持って活動する意思及び能力がある方々であり、現在県内では、59人が認定されています。その方たちが、企業や高校に出向き、実際に指導しています。

この事業の実施主体は秋田県職業能力開発協会ですが、県も「ものづくりマイスター」の活用を支援する会議、「秋田県若年技能者人材育成支援等事業連携会議」のメンバーの一員であり、ともに技能の継承に努めているという立場です。

来年度も、ものづくりマイスターの活躍が期待されます。

報告事項

- ① 平成25年度県立技術専門校修了予定者の就職内定状況について
- ② 平成26年度県立技術専門校訓練生の入校選考の状況について
- ③ 職業能力開発事業に関する平成25年度実施状況及び平成26年度実施計画

○ 技術専門校の就職希望者が修了者数よりも下回っているのはどういうことでしょうか。

→ 修了後、進学する訓練生もいます。

また、入校者数より修了者数が減っているのは、2年間の間に技術専門校を辞めている訓練生もいるからです。

○ 離職者訓練の、販売サービス科の訓練が中止となっていますが、これはどのような訓練なのでしょう。訓練の内容を教えてください。商工会議所などの団体は、日商の販売士3級とかで普及に努めているのですけれども。

→ 販売の基礎知識、労務管理の知識・パソコン等訓練の3ヶ月のカリキュラムです。ハローワークの担当者によると、カリキュラムは説明していますが、販売サービスという言葉から営業をイメージする求職者が多く、就職先の業種が限られたものになると思い、敬遠されたのではと考えています。

○ P12の向上訓練事業についてですが、パソコン系のスポット的な新しい事業を習得して秋田の企業のスキルアップに繋げて欲しいと思います。

→ 情報産業振興にも力を入れているのですが、アプリやコンテンツ産業は情報セキュリティ関連の認証取得が必要となるので、事業に要する経費を今年度予算に入れていきます。